

慶應義塾大学麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニックの分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

1. 当研修プログラムには、臓器移植を含む様々な先進医療を担う基幹施設の慶應義塾大学病院をはじめ、地域の要として数多くの特徴ある専門研修連携施設が含まれる。連携施設の多くが東京都、神奈川県、埼玉県と千葉県にあり、比較的狭い地域内で研修が完結できる。各施設とも、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた質の高い麻酔科専門医を育成する。
2. 研修開始後1年6カ月程度で必要経験症例を網羅可能である。加えて、手術室における様々な局面に的確に対応できる臨床麻酔能力育成を第一に、集中治療、疼痛緩和治療、小児、心臓麻酔等の特殊麻酔分野への知識、技術も習得する。また周術期管理に携わる他の専門職と良好なコミュニケーション能力も併せて育成する。
3. 本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。更に専攻医修了後を見据えた環境を整え、サブスペシャリティー研修や研究・大学院進学を後押ししている。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修4年間の内、1年目と4年目のおよそ2年を基幹施設である慶應義塾大学病院で研修する。2年目と3年目の約2年間は、2つ又は3つの専門研修連携施設にて研修を行う。地域医療維持の為、連携施設研修では特定の医療圏に偏らないローテーションを基本として、個々の興味のある分野も重点的に学べるよう考慮する。
- 研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業する。勤務時間はタイムカード等で施設毎に管理する。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。
- 専攻医個々の経験症例数の進捗状況、興味対象分野の変遷、家庭の状況、健康状態などに応じ、専門研修基幹施設や専門研修連携施設での研修期間は柔軟に対応する。しかしながら、フルタイム勤務が出来ず時間短縮勤務や当直免除等の配慮が必要となった場合、緊急手術や長時間大手術の経験が減り研修効果が下がる懸念も生じる。当プログラムでは、勤務維持ができるように該当する専攻医が相談できる担当部署を設けている。
- 専門医研修プログラム管理委員会（以降、管理委員会）を年1回、定期的に開催する。専攻医の研修状況を専門研修基幹施設および専門研修連携施設の責任者で共有し、専攻医が十分な研修を行っているかどうか確認する。また、専攻医との年複数回の面談やアンケートを介して、各専門研修施設の評価を行って、管理委員会の場で審議する。研修施設での指導体制が十分でないと感じられた場合、専攻医が研修プログラム統括責任者に対して直接、文書、電子媒体などの手段によって報告することを可能とする。研修プログラム統括責任者および管理委員会は、専攻医の報告に応じて研修施設およびコースの変更、研修連携病院からの専門研修指導医の補充、専門研修指導医研修等を検討する。

研修の具体的内容

- 1年目は慶應義塾大学病院の手術センターで1年間勤務する。手術麻酔を担当して、基本的な麻酔管理の技術や知識を習得する。2～3年目は連携施設にて、地域拠点病院でよく遭遇する緊急手術や重症症例に対応できる能力を養成し、希望に応じて心臓麻酔や小児麻酔の専門施設にて研修を行う。4年目は手術センター、痛み診療センター、集中治療センター、緩和ケアセンターをローテーションして、サブスペシャリティー領域の研修や手術室コーディネーターとして求められる知識や技術を習得する。各施設で、週一回程度の当直かオンコール業務を経験する。
- 手術麻酔研修では、手術前日までに指導医との入念な麻酔計画を立てる。また、手術当日のカンファレンスにてプレゼンテーションとディスカッションを行い、実際の術中管理に臨む。術中・術後に生じた問題点は、指導医との振り返りながら多くの臨床経験を積む。
- 診療日の土曜日には、月1回の頻度で論文抄読会や症例検討会および国内外の学会発表予演会を含むカンファレンスを行う。年数回、各領域で活躍する講師を招き講演会を行い、その際は連携施設研修中でも参加できるようにする。
- 専門医取得・更新に必要な学術活動を推奨するため、基幹施設と連携施設で学会発表を最低でも年1回ずつ行う。専攻医は指導医のもとで発表の準備をはじめ、スライド作成や予演会を通じ

て口語発表に必要な技術を習得する。慶應義塾大学病院の教職員専用のホームページから主要な国内・海外雑誌はオンラインで閲覧可能のため、自主的な学びを深めることに活用できる。

- 本研修プログラムの連携施設には、東京歯科大学市川総合病院（千葉県市川市）とさいたま市立病院（埼玉県さいたま市）などが研修連携施設に含まれている。専攻医は、大病院だけではなく、地域拠点病院の研修連携施設を通じて当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

研修実施計画例

	A (標準1)	B (標準2)	B (心臓麻酔)	D (小児)
初年度 前期	基幹施設	基幹施設	基幹施設	基幹施設
初年度 後期	基幹施設	基幹施設	基幹施設	基幹施設
2年度 前期	川崎市立川崎病院	東京歯科大学市川総合病院	済生会横浜市東部病院	都立小児総合医療センター
2年度 後期	川崎市立川崎病院	東京歯科大学市川総合病院	都立小児総合医療センター	さいたま市立病院
3年度 前期	済生会横浜市東部病院	都立小児総合医療センター	循環器病研究センター	静岡県立こども病院
3年度 後期	都立小児総合医療センター	さいたま市立病院	循環器病研究センター	静岡県立こども病院
4年度 前期	基幹施設 (集中治療)	基幹施設 (ペイン・緩和)	基幹施設 (集中治療)	基幹施設 (ペイン・緩和)
4年度 後期	基幹施設 (ペイン・緩和)	基幹施設 (集中治療)	基幹施設 (ペイン・緩和)	基幹施設 (集中治療)

週間予定表

慶應義塾大学病院での専門研修1年目の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	非常勤	手術室	手術室	休み
午後	手術室	手術室	休み	非常勤	手術室	休み	休み
当直		当直			残り番		

第2・第4・第5土曜日が診療日

月～金 8時～8時30分 手術症例カンファレンス

土 7時30分～8時 論文抄読会

13時～ 科内カンファレンス

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

慶應義塾大学病院

〒160 - 8582 東京都新宿区信濃町35 TEL : 03 - 3353 - 1211

URL : <http://www.hosp.keio.ac.jp/>

研修プログラム統括責任者：山田 高成

専門研修指導医：

山田 高成 (麻酔)	大橋 夕樹 (麻酔, 産科麻酔)
森崎 浩 (麻酔, 集中治療)	壽原 朋宏 (麻酔, 集中治療)
小杉 志都子 (麻酔, ペインクリニック)	増田 祐也 (麻酔, 区域麻酔)
三笠 裕美 (麻酔)	若泉 謙太 (麻酔, ペインクリニック)
長田 大雅 (麻酔, 集中治療)	伊原 奈帆 (麻酔, 緩和医療)
加藤 純悟 (麻酔, 心臓麻酔)	阪本 浩平 (麻酔)
御園生 与志 (麻酔)	寅丸 智子 (麻酔)
五十嵐 達 (麻酔, 区域麻酔)	瀬上 和貴 (麻酔)
井上 敬 (麻酔, 区域麻酔)	

専門医：

星野 麗子 (麻酔, ペインクリニック)	戸谷 遼 (麻酔, 心臓麻酔)
平畑 里枝子 (麻酔)	高井 琴子 (麻酔)
若宮 里恵 (麻酔, 小児麻酔)	岡本 泰治 (麻酔)
鈴木 悠太 (麻酔, 集中治療)	黒瀬 瞳 (麻酔)
本田 あやか (麻酔, ペインクリニック)	小山 祐果 (麻酔)
生駒 祐介 (麻酔, 集中治療)	

麻酔科認定病院番号 : 3

特徴：臓器移植を含む様々な先進的手術あるいは種々の合併症を有する患者手術等、麻酔管理の質が問われる症例が数多くあり、同時に必要経験症例数を遙かに上回る各診療科の手術麻酔が経験出来ます。手術麻酔に加えて、集中治療、ペインクリニック、緩和医療や無痛分娩など幅広く研修の機会を提供しています。学会発表や論文執筆はもとより、研修プログラム終了後の進路を見据えた環境を整えています。

2021年度麻酔科管理症例：8,628例

特殊な経験必須症例 (2021年度)	年間施設症例数
小児 (6歳未満) の麻酔	395症例
帝王切開術の麻酔	295症例
心臓血管外科の麻酔 (腹部大動脈手術を含む)	557症例
胸部外科手術の麻酔	567症例
脳神経外科手術の麻酔	187症例

② 専門研修連携施設A

1) 東京歯科大学市川総合病院

〒272 - 8513 千葉県市川市菅野5 - 11 - 13 TEL : 047 - 322 - 0151 (代表)

URL : <https://www.tdc.ac.jp/igh/tabid/734/Default.aspx>

研修実施責任者 : 大内 貴志

専門研修指導医 :

大内 貴志 (麻酔)	荻原 知美 (麻酔, 緩和ケア)
小坂橋 俊哉 (麻酔, 緩和ケア・ペインクリニック)	中山 純子 (麻酔)
印南 靖志 (麻酔, 集中治療)	小平 智文 (麻酔)
伊東 真吾 (麻酔, 集中治療)	

麻酔科認定病院番号 : 688

特徴 : 東京歯科大学市川総合病院麻酔科専門医研修プログラムの基本方針は、最終到達目標を無理なく達成できるようにすることにあり、専攻医ひとりひとりに合わせながらプログラムを調整して行く。研修1年目は、専門研修指導医によるマンツーマン指導下で研修を行う。当施設では、基本的に指導医間に麻酔方針に大きな差がないことも特徴であり、専攻医のストレス軽減の一助となっていると考える。2年目以降は、自主性を重視しながらも、専門研修指導医、麻酔科専門医によるスーパーバイズを受けられる体制下で研修を行う。3年目以降は、専門研修指導医と共に初期研修医の指導を経験できるようにする。希望者は、集中治療および緩和ケア研修を並行して行うことが可能である。

本プログラムでは将来の専門医受験資格に列記されている小児、帝王切開術、心臓血管手術、胸部外科手術、脳神経外科手術の麻酔症例のみならず、幅広い麻酔症例を経験できる。歯科大学の附属病院である当院の特徴の一つに、年間390例を超える口腔外科症例があり、経鼻挿管や経鼻気管支ファイバー挿管の経験を積むことが可能である。

また、研修内容としては臨床経験を積むことが中心であるが、国内や海外での学会発表や臨床研究などの学術面にも力を入れた指導を行い、将来の指導者を養成して行く。

当院は忙しいものの、専攻医として十分な休養がとれるような配慮も行っている。具体的には、オンコール日の夜間勤務状況に応じてその翌日の勤務を免除するシステムや、不定期ではあるもののリフレッシュ休暇などである。また、院内保育園を有しており、女性医師が専攻医としてキャリアを積むことが可能である。

2021年度麻酔科管理症例 : 3,351例

2) 川崎市立川崎病院

〒210 - 0013 川崎市川崎区新川通12 - 1 TEL : 044 - 233 - 5521 (代表)

URL : <https://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/index.html>

研修実施責任者 : 森田 慶久

専門研修指導医 :

森田 慶久 (麻酔, 集中治療)

奥田 淳 (麻酔, 集中治療)

菅 規久子 (麻酔, 集中治療)

出野 智史 (麻酔, 集中治療)

細井 卓司 (麻酔, 集中治療)

岡部 久美子 (麻酔)

麻酔科認定病院番号 : 199

特徴 : 川崎市立川崎病院は、病床数約700床を擁し、麻酔科管理の手術症例数は年間4000例を超える川崎市の地域基幹病院である。各診療科が揃い、移植外科や小児心臓外科等の特殊症例を除く、すべての診療科の手術を経験することができる。3次救急指定病院であり、緊急手術症例も豊富である。マンパワー、教育体制も充実しており、丁寧な指導を受けながら幅広く症例を経験できる。当院麻酔科では、画一的な麻酔にとらわれず、プロフェッショナルとして様々な状況に柔軟に対応できる懐の深い麻酔科医を育てたいと考えている。手術室業務のほかICU業務も兼務しており、集中治療の研鑽も積むことができる。責任基幹施設である川崎市立川崎病院をはじめ、連携研修施設の川崎市立井田病院、済生会横浜市東部病院、東京都立小児総合医療センター、社会医療法人財団石心会 川崎幸病院、日本鋼管病院、慶応義塾大学病院、さいたま市立病院、東海大学病院、東京歯科大学市川総合病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

本研修プログラムは、麻酔科専門医の育成を行う中で、連携施設での勤務を通じて地域医療への貢献も同時に実現していけるよう配慮されている。

2021年度麻酔科管理症例 : 3,584例

3) 東京都立小児総合医療センター

〒183 - 8561 東京都府中市武蔵台2 - 8 - 29 TEL : 042 - 300 - 5111 (代表)

URL : <https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/>

研修実施責任者 : 西部 伸一

専門研修指導医 : 西部 伸一 (小児麻酔)

山本 信一 (小児麻酔)

北村 英恵 (小児麻酔)

寰島 梨恵 (小児麻酔)

佐藤 慎 (小児麻酔)

伊藤 紘子 (小児麻酔)

認定施設番号 : 1468

特徴 : 地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が4000件と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコー下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

2021年度麻酔科管理症例 : 3,883例

4) さいたま市立病院

〒336 - 8522 埼玉県さいたま市緑区三室2460番地 TEL : 048 - 873 - 4111 (代表)

URL : <https://www.city.saitama.jp/hospital/index.html>

研修実施責任者：忍田 純哉

専門研修指導医：

忍田 純哉 (麻酔, 集中治療)	石川 紗希 (麻酔)
中村 教人 (麻酔, 集中治療)	勅使河原 綾野 (麻酔)
安藤 嘉門 (麻酔, 集中治療)	坂本 美岬 (麻酔)
佐藤 正顕 (麻酔, 心臓麻酔)	

麻酔科認定病院番号：612

特徴：さいたま市立病院は、地域の基幹病院として、急性期医療を中心に高度な医療を提供するという使命・役割を果たしている。内容はあらゆる科・臓器・年齢にわたっており、麻酔の研修に不足は全くない。救急医療も積極的に推進しており、救命救急センターよりの3次救急や心臓外科や脳神経外科を含めた広い分野での緊急手術の麻酔管理の研修が可能である。また、NICUを完備した周産期センターを併設しているので、ハイリスク妊娠患者の麻酔管理から、低体重の新生児麻酔まで研修可能である。がん診療拠点病院でもあるので、高齢者の管理を含め、がん関連の症例からも学ぶこと（疼痛管理も含めて）は多い。地域の高齢化もあり、骨折等の整形外科手術も多く、神経ブロックの習得にも有利である。

2021年度麻酔科管理症例：3,774例

5) 東京都立大塚病院 (以下、都立大塚病院)

〒170 - 8476 東京都豊島区南大塚2丁目8番1号 TEL : 03 - 3941 - 3211 (代表)

URL : <https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/ohtsuka/index.html>

研修実施責任者：新井 多佳子

専門研修指導医：

新井 多佳子 (麻酔, 区域麻酔)	伊藤 祥子 (麻酔, 区域麻酔)
小原 崇一郎 (麻酔, 小児麻酔)	佐々木 綾 (麻酔, 区域麻酔)

専門医：

奥田 奈穂 (麻酔, 区域麻酔)

麻酔科認定病院番号：472

特徴：総合周産期センターを併設しているため、一般的な麻酔管理に加えて産科麻酔や新生児・小児麻酔の経験が可能である。またペインクリニック研修やICU研修を行える環境を整えている。なお当院に診療科のない心臓血管外科のほか、小児麻酔についても専門研修連携施設での研修を行い、より専門的な知識と経験を得られるようにしている。

2021年度麻酔科管理症例：2,359例

6) 社会福祉法人恩賜財団 済生会横浜市東部病院

〒230 - 8765 神奈川県横浜市鶴見区3 - 6 - 1 TEL : 045 - 576 - 3000 (代表)

URL : <https://www.tobu.saiseikai.or.jp/>

研修実施責任者 : 佐藤 智行

専門研修指導医 :

佐藤 智行 (麻醉, 集中治療)	秋山 容平 (麻醉)
谷口 英喜 (周術期管理, 麻醉)	佐藤 貴紀 (麻醉)
高橋 宏行 (麻醉, 集中治療)	鎌田 高彰 (麻醉, 周術期管理)
上田 朝美 (麻醉, 集中治療)	玉井 謙次 (麻醉, 集中治療)
斎藤 郁恵 (麻醉)	竹郷 笑子 (麻醉, 集中治療)

専門医 :

三浦 梢 (麻醉)	田中敬大 (麻醉)
富田 真晴 (麻醉)	佐藤雄生 (麻醉)
浅見 優 (麻醉)	池田敏明 (麻醉)
中山 博介 (麻醉)	長谷川誠 (麻醉, 集中治療)
竹田 溪輔 (麻醉)	倉田早織 (麻醉, 救急)
佐久間 絢 (麻醉)	

麻醉科認定病院番号 : 1315

特徴 : 済生会横浜市東部病院は平成19年3月に開院し、地域に根ざした横浜市の中核病院として、そして済生会の病院として、救命救急センター・集中治療センターなどを中心とした急性期医療および種々の高度専門医療を中心に提供する病院である。また、急性期病院であるとともに、ハード救急も担う精神科、重症心身障害児(者)施設も併設されている。また、「より質の高い医療の提供」に加え「優秀な医療人材の育成」も重要な使命と考え、研修医、専門医の育成にあたっており、医師、すべての職員が、充実感をもって働くことができる職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる。

2021年度麻醉科管理症例 : 4,988例

7) 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

〒564 - 8565 大阪府吹田市岸部新町6番1号 TEL : 06 - 6170 - 1070 (代表)

URL : <https://www.ncvc.go.jp/>

研修実施責任者 : 大西 佳彦

専門研修指導医 : 大西 佳彦 吉谷 健司 金澤 裕子

前田 琢磨 南 公人 下川 亮

専門医 : 加澤 昌広 森永 将裕 細谷 俊介

麻酔科認定病院番号 : 168

特徴 : センター手術室は12室であり、そのうち4室はハイブリッド手術室である。ロボット手術専用室やCOVID対応印圧手術室も設置している。2021年はCOVIDの影響で症例の少ない月も見られたが、ほぼ前年と同程度であった。緊急大動脈解離手術は100症例を超え、ロボット手術を含む小切開心臓手術も120症例以上であった。また、劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も50症例以上と増加し、心臓移植も12症例に施行した。麻酔科医はスタッフ6名レジデント17名で対応した。集中治療専属医は2名であった。休日を含めた毎日、麻酔科医2名が当直、集中治療室でも1名当直、オンコール2名ですべての緊急症例および集中治療室管理に対応した。2022年はスタッフ麻酔科医8名、集中治療医2名とレジデント18名で対応していく予定である。

2021年度麻酔科管理症例 : 2,267例

8) 東邦大学医療センター大橋病院

〒153 - 8515 東京都目黒区大橋2 - 22 - 36 TEL : 03 - 3468 - 1251 (代表)

URL : <https://www.ohashi.med.toho-u.ac.jp/>

研修実施責任者 : 小竹 良文

専門研修指導医 :

小竹 良文 (麻酔, 集中治療)

下井 晶子 (麻酔)

豊田 大介 (麻酔)

小野寺 潤 (麻酔)

牧 裕一 (麻酔, 集中治療)

富地 恵子 (麻酔)

専門医 :

川原 小百合 (麻酔)

坂本 優安 (麻酔)

両角 幸平 (麻酔)

木下 純貴 (麻酔)

阿部 理沙 (麻酔)

麻酔科認定病院番号 : 193

特徴 : 周術期センターが設置されており、麻酔科医、薬剤師、看護師、歯科衛生士による総合的な評価を行い、術前から術後まで安全で質の高い管理が可能となっている。ペインクリニックは麻酔科発足以来、慢性疼痛の診断と治療を全国に先駆け教室のテーマとしている。また、集中治療、呼吸ケアチームでも麻酔科が中心となり活動している。

2021年度麻酔科管理症例 : 2,892例

9) 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

〒157 - 8535 東京都世田谷区大蔵2 - 10 - 1 TEL : 03 - 3416 - 0181 (代表)

URL : <https://www.ncchd.go.jp/>

研修実施責任者：鈴木 康之

専門研修指導医：

鈴木 康之 (小児麻酔, 集中治療)	古田 真知子 (小児麻酔)
大原 玲子 (産科麻酔)	松永 渉 (産科麻酔)
糟谷 周吾 (小児麻酔)	浦中 誠 (小児麻酔)
蜷川 純 (小児麻酔)	橋谷 舞 (小児麻酔)
山下 陽子 (産科麻酔)	阿部 真友子 (産科麻酔)
馬場 千晶 (小児麻酔)	伊集院亜梨紗 (産科麻酔)
宮坂 清之 (小児麻酔)	壺井 薫 (小児麻酔)

専門医：

高橋 亜紗子 (産科麻酔)

麻酔科認定病院番号：87

- 国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）および周術期管理を習得できる。
- 国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- 小児肝臓移植、腎移植、小腸移植、心臓移植の周術期管理を習得できる。
- 小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる。
- 臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

2021年度麻酔科管理症例：6,224例

特殊な経験必須症例（2021年度）	年間施設症例数
小児（6歳未満）の麻酔	2,210症例
帝王切開術の麻酔	788症例
心臓血管外科の麻酔 （腹部大動脈手術を含む）	136症例
胸部外科手術の麻酔	29症例
脳神経外科手術の麻酔	194症例

10) 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター

〒152 - 8902 東京都目黒区東が丘2 - 5 - 1 TEL : 03 - 3411 - 0111 (代表)

URL : <https://tokyo-mc.hosp.go.jp/>

研修実施責任者：吉川 保

専門研修指導医：

小林 佳郎 (麻酔)

安村 里絵 (麻酔, 集中治療, 心臓麻酔)

吉川 保 (麻酔, ペインクリニック)

加藤 奈々子 (麻酔・産科麻酔)

櫻井 裕教 (麻酔, 集中治療)

吉武 美緒 (麻酔)

森 庸介 (麻酔, 集中治療, 心臓麻酔)

専門医：

茂田 宏恵 (麻酔)

入江 駿 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：221

特徴：東京医療センターは旧国立東京第二病院といわれた昭和43年から臨床研修指定病院に指定され、伝統的に医療従事者の教育研修に熱心な施設である。近年は地域との結びつきの強い急性期病院として、救命救急センター・地域がん診療連携拠点病院・東京都災害医療拠点病院・地域医療支援病院などの指定を受けるとともに、高度先進医療にも取り組んでいる。そして当センターの理念『患者の皆様とともに健康を考える医療の実践』を実行すべく、技術とシステムの改修に加え、診療・教育・研究を通して医療の質の向上を目指している病院である。

麻酔科としても、2016年から麻酔科術前外来を開設、2020年からAPSチーム、2021年から和痛チームが発足し、術前から術後まで周術期チームの核となるべく様々な取り組みを行っている。専門医以上のスタッフが多く、若手から中堅そしてベテランまでがバランス良く存在していることも特徴のひとつである。どの年代層も常に新しい事を取り入れ進化する努力を怠らないようにしている。また医局の枠にとらわれず、国内外で活躍する当院麻酔科研修を終えた多くの麻酔科医と交流する機会があるのも魅力の一つである。

2021年度麻酔科管理症例：4,110例

11) 独立行政法人 地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター

〒330 - 0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和4 - 9 - 3 TEL : 048 - 832 - 4951 (代表)

URL : <https://saitama.jcho.go.jp/>

研修実施責任者：永渕 万理

専門研修指導医：永渕 万理 (麻酔) 藤田 淳子 (麻酔) 植松 明美 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：255

特徴：埼玉メディカルセンターは地元浦和および埼玉県さいたま地区を二次医療圏に持つ地域の第一線病院です。前身の埼玉社会保険病院の開院から約70年、地域に根付いた医療を提供しています。当院はブレスト（乳腺）センターと人工関節センターを運営しており、地元医師会や近隣開業医との連携のもと全国屈指の乳がん手術（年間250件強）と人工膝関節置換術（年間250件強）を行っています。特殊な疾患や稀な合併症をもつ手術患者は少なく、ほとんどが日頃良く遭遇する疾患や合併症の麻酔管理です。2021年度麻酔科管理症例：1,882例

12) 国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190 - 8531 東京都立川市錦町4 - 2 - 22 TEL : 042 - 523 - 3131 (代表)

URL : <https://www.tachikawa-hosp.gr.jp/>

研修実施責任者：福積 みどり

専門研修指導医：

福積 みどり (麻酔) 寺門 瞳 (麻酔)

羽鳥 英樹 (麻酔, 集中治療, ペインクリニック) 大橋 祐介 (麻酔)

専門医：

澤田 恭子 (麻酔) 中西 美沙 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：337

特徴：東京都の南多摩地区にある地域の基幹病院であり、地域医療支援病院、東京都災害拠点病院、東京都地域周産期母子医療センター、第2種感染症指定病院などの指定を受け、急性期医療を中心に専門的な医療を提供しています。また東京都の精神患者身体合併症医療事業指定病院として精神科身体合併症の治療にも積極的に取り組んでおり、様々な患者さんの全身管理を学ぶことができます。職員それぞれが患者さんを中心としたチームの一員としてその専門性をフルに発揮できるよう、知識や技術そしてコミュニケーションスキルを身につけ、様々な場面で活躍できる医師の育成に力を入れています。

2021年度麻酔科管理症例：3,821例

13) 東海大学医学部附属病院

〒259 - 1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143 TEL : 0463 - 93 - 1121 (代表)

URL : <https://www.fuzoku-hosp.tokai.ac.jp/>

研修実施責任者：鈴木 武志

専門研修指導医：

鈴木 武志 (麻酔, 集中治療) 瓜本 言哉 (麻酔)

西山 純一 (麻酔) 姜 卓義 (麻酔)

伊藤 健二 (麻酔) 山崎 花衣 (麻酔)

竹山 和秀 (麻酔) 伊藤 美保 (麻酔, 緩和医療)

齋藤 聡 (麻酔) 澤田 真如 (麻酔)

松田 光正 (麻酔) 平澤 美代子 (麻酔)

齋藤 啓一郎 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：116

特徴：麻酔科管理手術症例が年間7千件を超え、三次救急を行っているため外傷を含めた緊急手術も多く、心臓外科・呼吸器外科・小児外科などの特殊麻酔も豊富で、専門医になるための必要症例数を十分に経験できます。ICUは32床、EICUは19床を擁し、今後は麻酔科医の集中治療への参画も計画しています。勉強会、学会発表も積極的に行っております。

2021年度麻酔科管理症例：7,348例

14) 埼玉医科大学総合医療センター

〒350 - 8550 川越市鴨田1981番地 TEL : 049 - 228 - 33411 (総合案内)

URL : <http://www.kawagoe.saitama-med.ac.jp/>

研修実施責任者：小山 薫

専門研修指導医：

小山 薫 (麻酔, 集中治療)	田澤 和雅 (麻酔)
照井 克生 (麻酔, 産科麻酔)	加藤 梓 (麻酔, 産科麻酔)
小幡 英章 (麻酔)	結城 由香子 (麻酔)
鈴木 俊成 (麻酔, 区域麻酔)	北岡 良樹 (麻酔)
清水 健次 (麻酔, ペインクリニック)	金子 恒樹 (麻酔, 産科麻酔)
田村 和美 (麻酔, 産科麻酔)	成田 優子 (麻酔, 産科麻酔)
丸尾 俊彦 (ペインクリニック)	松田 祐典 (麻酔, 産科麻酔)
山家 陽児 (麻酔, ペインクリニック)	佐々木 華子 (麻酔)
加藤 崇央 (麻酔, 集中治療)	原口 靖比古 (麻酔)

専門医：

杉本 真由 (麻酔, ペインクリニック)	坂本 尚子 (麻酔)
伊野田 絢子 (麻酔, 集中治療)	岡田 啓 (麻酔)
高橋 綾子 (麻酔)	大久保 訓秀 (麻酔)
金子 友美 (麻酔)	野口 翔平 (麻酔, 産科麻酔)
黒川 右基 (麻酔, 集中治療)	渡辺 楓 (麻酔, 産科麻酔)

麻酔科認定病院番号：390

特徴：県内唯一の総合周産期母子医療センターかつ高度救急救命センターでドクターヘリが設置されている。急性期医療に特化した麻酔管理のみならず、独立診療体制の産科麻酔、ペイン、集中治療のローテーションが可能で、手術室麻酔のみならずオールラウンドな麻酔科医を目指すことができる。

2021年度麻酔科管理症例：7,484例

15) 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター

〒441 - 8611 静岡県駿東郡清水町長沢762 - 1 TEL : 055 - 975 - 2000 (代表)

URL : <https://shizuoka-mc.hosp.go.jp/>

研修実施責任者：小澤 章子

専門研修指導医：小澤 章子 (麻酔, 集中治療) 今津 康宏 (麻酔, 集中治療)

専門医：波里 淳子 (麻酔, 集中治療)

麻酔科認定病院番号：866

特徴：地域医療支援病院として循環器疾患を中心に急性期治療を行っている。集中治療のローテーション可能。

2021年度麻酔科管理症例：1,791例

16) 静岡県立静岡がんセンター

〒441 - 8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007番地 TEL : 055 - 989 - 5222 (代表)

URL : <https://www.scchr.jp/index.html>

研修実施責任者：玉井 直

専門研修指導医：

玉井 直 (麻酔一般)	小石川 亜矢(麻酔一般)
安藤 憲興 (麻酔一般)	山下 麻子 (麻酔一般)
江間 義朗 (麻酔, ペインクリニック)	井出 利恵 (麻酔一般)
朝倉 雄介 (麻酔一般)	松井 智子 (麻酔一般)
靱山 幸紀 (麻酔一般)	

麻酔科認定病院番号：972

特徴：がん全般の手術，ダヴィンチ手術（直腸，前立腺・腎，胃，子宮，肺・縦郭，食道）週14件程度，胸部外科（肺・縦郭・食道）週10件以上，開頭術週2件程度。

2021年度麻酔科管理症例：3,771例

17) 東京都立多摩総合医療センター

〒183 - 8524 東京都府中市武蔵野台二丁目8番地の29 TEL : 042 - 323 - 5111 (代表)

URL : <https://www.tmhp.jp/tama/>

研修実施責任者：山本 博俊

専門研修指導医：

山本 博俊 (麻酔, 心臓麻酔)	松原 珠美 (麻酔)
貴家 基 (麻酔)	三井 裕介 (麻酔)
阿部 修治 (麻酔, ペインクリニック)	本田 亜季 (麻酔)
田辺 瀬良美 (麻酔, 産科麻酔)	稲吉 梨絵 (麻酔)
高田 眞紀子 (麻酔, 心臓麻酔)	滝島 千尋 (麻酔, ペインクリニック)
渡邊 弘道 (麻酔, 緩和医療)	

専門医：

北條 貴也 (麻酔)	頼母木 由子 (麻酔)
江村 彩 (麻酔)	土屋 愛依 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：89

特徴：多摩地域における唯一の総合的な医療機能を持つ都立病院として，11の重点医療を定めて高度専門医療を実施している．その中でも救急医療，がん医療，周産期医療を三本柱として重視している．多数の外科系診療科がまんべんなくそろっており，症例は豊富でバラエティに富んでいる．緊急手術特に産科の緊急手術が多いのが特徴である．

2021年度麻酔科管理症例：5,709例

③ 専門研修連携施設 B

1) 川崎市立井田病院

〒210 - 0013 川崎市中原区井田2 - 27 - 1 TEL : 044 - 766 - 2188 (代表)

URL : <https://www.city.kawasaki.jp/33/cmsfiles/contents/0000037/37855/ida/>

研修実施責任者：中塚 逸央

専門研修指導医：中塚 逸央 (麻酔)

認定病院番号：1284

特徴：川崎市立井田病院は2015年に全面開院し、地域の医療ニーズに合わせて救急対応病棟を設置、急性期から退院への橋渡しを行う地域包括ケア病棟、1998年開設の緩和病棟、現在では川崎市内で唯一結核入院設備を有しており、癌診療、健和ケア、在宅医療に至るまで地域医療の充実が得られるよう対応している。結核病棟では現在COVID-19感染者の入院治療を行っている。また2016年より手術支援ロボット・ダビンチを導入し、泌尿器科による前立腺や膀胱手術を行っている。信頼される医療を提供できるよう臨床能力を高めるとともに、患者さんはもとより他の医療職とのコミュニケーション能力を身に付けられる医師の育成に尽力している。

2021年度麻酔科管理症例：1,180例

2) 地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立こども病院

〒420 - 8660 静岡県静岡市葵区漆山860 TEL : 054 - 247 - 6251 (代表)

URL : <http://www.shizuoka-pho.jp/kodomo/>

研修実施責任者：奥山 克己

専門研修指導医：奥山 克己 渡邊 朝香

認定病院番号 183

特徴：静岡県立こども病院は病床数約270で静岡県静岡市の北がわに位置し、自然に囲まれた病院です。小児に特化した病院で症例は豊富です。特に循環器系と気道系の症例が県外からもセカンドオピニオンを経て来られる患者家族がおられます。麻酔は全身麻酔が基本ですが術前から術後に関して特に鎮痛に十分な配慮ができるようにしています。そのため術後鎮痛のために積極的に区域麻酔を併用しています。小児全般の麻酔管理を経験するには充分かと思えます。見学等も随時受け付けています。

2021年度麻酔科管理症例：2,819例

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。採用は事前に提出した小論文と面接にて決定する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、慶應義塾大学麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

慶應義塾大学病院 麻酔学教室 教授 山田高成

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 TEL 03-3353-1211(内線61608)

E-mail keioanesresidento@gmail.com

Website URL : <http://www.keio-anesthesiology.jp/>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備を整えており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病

院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

慶應義塾大学病院にて指導医・上級医の指導の下、多様な手術や患者の周術期管理を安全に行う。年度末にはASA-PS 1～2の予定手術症例の麻酔を完結する力を養う。

専門研修2年目

地域の拠点病院に出向し、指導医・上級医の指導の下、一般的な緊急手術の周術期管理を安全に行う。一人オンコール・当直を経験して、緊急手術の麻酔を完結する力を養う。

専門研修3年目

2年目の経験を発展させ、連携施設で日頃遭遇する重症患者や緊急手術の周術期管理を行う。専門性の高い分野（心臓麻酔、小児麻酔）を希望する場合には、国立循環器病センターや東京都立小児総合医療センターなどで研修する。年度後半より順次、慶應義塾大学病院にて麻酔関連領域の研修を始める。

専門研修4年目

慶應義塾大学病院にて麻酔関連領域の研修と手術室運營業務の経験を積む。手術センターでは、連携施設で経験しにくい特殊な麻酔（TAVI、心臓麻酔、小児頭蓋形成など）を指導医の下、周術期管理を行う。集中治療センターでは、専従医の指導の下、重症患者の管理（呼吸・循環・栄養・感染・腎代替療法など）を安全に行う。痛み診療センターでは専門医の指導の下、痛みの定義と強さや性状の評価方法を学び、適切な治療法について理解を深める。緩和ケアセンターでは、専従医の指導の下、多職種チーム医療における麻酔科医の役割を理解し、total pain の評価とオピオイドをはじめとする薬物療法について理解を深める。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかを修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年まで休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としてのさいたま市立病院、東京歯科大学市川総合病院、静岡県立静岡がんセンターなど幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業する。勤務時間はタイムカード等で施設毎に管理する。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。